

じゃっと新聞

No.64号

総会報告・スタディツアー案内

発行日：2014.7.29

発行人：帖佐 徹

発行所：じゃっと事務局

〒895-0052

鹿児島県薩摩川内市神田町 11-20

若松記念病院内

TEL/FAX 0996-27-0193

e-mail jaddo@po2.synapse.ne.jp

<http://www2.synapse.ne.jp/jaddo/>

理事長 帖佐 徹

暑中お見舞い申し上げます。5月30日の総会で新理事長に御指名いただきました、帖佐徹(チョウサトオル)です。総会後の川内は、6月は豪雨、7月は台風直撃されたかと思えば、一転猛暑の夏となりました。皆様、健康にはご留意ください。

さて、新理事長としての主たる責務の一つは、来年平成27年2月28日(土)開催予定の、第33回日本国際保健医療学会西日本地方会を成功させることです。地方会世話人会から昨年御指名を受けた時考えたことは、「じゃっと」の活動を興味深く見てくださる方も沢山居られるということです。確かに、「じゃっと」のNGOとしての活動は実は少しユニークです。以下あげてみましょう：

1. 保健医療協力を謳うNGOなのに、保健医療関係者はせいぜい3人。そして関係者でないメンバーが中心になって活動してきた。小さな地方自治体の、様々な人的ネットワークによる「住民全員参加」が、20年を超える活動を可能にした。
2. 国際協力にどっぷり長期間浸かったことのある人も少ない。(これも3人ほど) しかし皆に、ラオスの子供達のために何か出来ることをしたいという熱意があった。それ故、「学校保健」という万人に分かりやすい目標が設定できた。
3. フルタイムメンバーがいない。現地駐在スタッフもいない。全員ボランティアで、基本人件費は支出しない。ラオス側に対しても同じコンセプトで接し、他の多くの素晴らしいNGOが直面する資金問題の影響を少なく出来ている。
4. ラオスでの活動は、コンサップ先生とソムチット先生のラオス人メンバーが主体で、彼らもボランティア。日本側の協力はそのサポートの部分が大きい。「指導」ではなく、「協働」でやってこれたのは、ラオス側のオーナーシップに依っており、それ無しでは「じゃっと」の継続はなかった。

こんな部分を見ていただいての御指名とあれば、まことに有難いことです。地方会を通じて、日本の国際医療保健協力に還元できるものがあればと、お引き受けした次第です。

一言でいえば、「じゃっと」の協力形態は、「無理をしない」ということです。これは決して、熱意がないということではありません。21年前「じゃっと」が設立されたときから、メンバーはそれなりの大人で他に仕事もありました。「在るもので出来ることを考える」以外の選択肢はなかったのです。つまり、「熱いハートとクールなマインド」です。それ故、「じゃっと」の21年は、拡大よりも継続を目指して、「小さく長く緩やかに」に流れて来たのです。

長くなりましたが、今後もこのような「じゃっと」独自の活動形式を通じて、ラオスの子供達の成長を見守っていきたいと思っています。皆様ご支援よろしく申し上げます。

平成 25 年度(2013 年) 事業報告

自 平成 25 年 4 月 1 日～至 平成 26 年 3 月 31 日

昨年、じゃっどの 20 周年式典での演奏が縁で 9 月 28 日薩摩川内国際青少年音楽祭ではラオス民族音楽団の演奏と踊りが披露され大盛況だった。多くの市民にじゃっどパネルや演奏を通じラオスに触れてもらえた良い機会であった。

25 年度までの継続事業としてビエンチャン市内 3 校での事業確認を行った。昨年バンチャン小学校がシロアリ被害にあっており、屋根と梁の改修後の確認を行った。ナテ小学校はシロアリ被害が発生し、サムケ小学校は屋根補修と扇風機の交換と 2 校からの支援要請に継続支援予定である。そして今年度新たに支援するカムアン県セバンファイ郡の保健局、教育局そして母子保健支援 ISAPH を表敬訪問し、この地区のトゥン小学校、バンファナ小学校、ドンマークバ小学校の 3 校を起点に学校保健を行った。

本年度の机いすは 70 セット作成しセバンファイ郡の 7 校に供与し、スタディツアー時に会員が記名した。

国内活動は日本国際保健医療学会西日本地方会（愛知）に出席した。地域活動として薩摩川内元気塾を中心にじゃっどの活動を子供達に知ってもらおう講演会を 6 回行った。また以前アジア貢献賞を受賞した西日本国際財団よりキッズ大賞の推薦を依頼され、北薩及び薩摩川内市に広くじゃっどの活動を啓発する事が出来た。

1. 国内の活動

①絵本部：

本年度は、昨年貼り終えていなかった“てをあらおう”のラオス語のシール貼りを、10 月純心大学祭にボランティア体験学習で参加した鹿児島大学生に協力してもらった。完成したものを、12 月のスタディツアーの際にカムアン県の 7 小学校に届けた。

②開発部：

◆参加したイベント

- ・ 薩摩川内国際青少年音楽祭（9 月）
- ・ 鹿児島純心女子大学祭（10 月）
- ・ かごしまささえ愛フェスタ（3 月）

◆講演、会合への出席

- ・ 鹿児島大学「ボランティア論」（4 月、11 月）：講義
- ・ 川内ライオンズクラブ（5 月）：講話
- ・ パネル展示（5 月）於：さつまパイロットクラブ
- ・ 学校評価委員会（7 月、11 月、2 月）：出席
- ・ 薩摩川内元気塾講演会 薩摩川内市内の小学校 5 校（7 月）：講話
- ・ ISAPH ラオス活動報告会 於：聖マリア学院大学（7 月）：出席
- ・ 薩摩川内国際青少年音楽祭（9 月）：後援

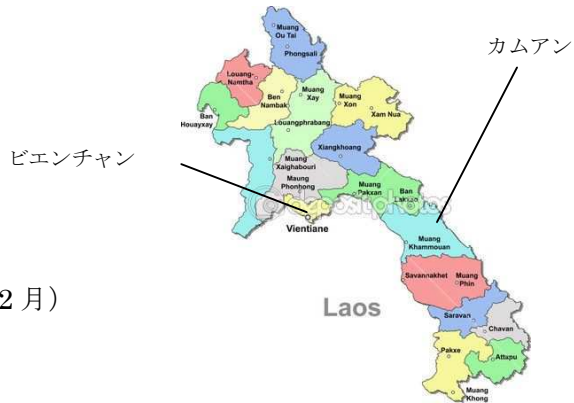
- ・ JICA 国際協力パネル展 於：天文館ぴらもーる（10月）
- ・ 薩摩川内元気塾講演会 平成中学校（10月）：講話
- ・ 鹿児島純心女子大学祭（10月）：ブースでのラオスパネル展示
- ・ MBC「開局 60周年感謝の夕べ」（10月）：出席
- ・ 薩摩川内市市民活動ネットワーク会議（1月、2月）：出席
- ・ 第 22 回青少年健全育成意見発表大会（2月）：後援、出席
- ・ 西日本国際財団アジア貢献賞、キッズ大賞祝賀式（2月）：出席
- ・ 日本国際保健医療学会 西日本地方会（3月）：出席・ブースでの活動紹介

③広報部：

- ・ じゃっど新聞 62 号、63 号を発行

◆じゃっど事務局訪問◆

- ・ 南日本新聞社取材（10月）
- ・ 九州電力生活協同組合鹿児島支部より
執行委員長、事務局長（2月）



2.ラオスでの活動

1.ビエンチャン

ナテ村のフォローアップ視察、サムケ小学校視察、バンチャン小学校視察。

2.カムアン県セバンファイ郡

シーブンファン地区トゥン小学校、バンファナ小学校、ドンマークバ小学校視察、教師トレーニング等

●検便実施（2013年12月2～6日、トゥン小学校）

この小学校は1年生44名、2年生32名、3年生32名、4年生34名、5年生32名。校長を含む教職員は、9名である。

まず、初日に教師とミーティングを行った。

検便容器を渡し、採取方法を説明した。その後教師は子供たちにそれを伝えた。

翌日全校生徒の約8割が便を持参した。セバンファイ郡病院の検査室を借りて Kato-Kats 法で検査した。検査を担当したのは、セバンファイ郡病院の検査技師と国立公衆衛生院の検査技師2名である。

134の検体中の62例（45%）が虫卵陽性であった。主要な寄生虫は2種類であった。タイ肝吸虫（肝臓に寄生）43例（31%）、鉤虫（十二指腸に寄生）27例（19.5%）、重複感染している子供は11名（8%）だった。他に鞭虫、サナダムシに陽性の子供が3名いた。タイ肝吸虫は、川の生魚を食べるといった食習慣を通じて感染する。鉤虫は、はだしで外を歩いたり、田んぼに入るなどの機会に土壌を通じて感染する。

寄生虫予防や治療のために、プラジカンテルやメベンダゾール等駆虫薬服用の国家プロトコルがあるが、副作用や薬価の問題で、この地区ではほとんど実施されていない。また駆虫しても、生活習慣を変えない限り、再感染は必至である。今後、教師対象のセミナーを実施し寄生虫感染予防の普及に努める。

●学校保健セミナー実施（2014年3月24日、トゥン小学校）

カムアン県セバンファイ郡にて“じゃっど”ラオスの医師3名が、郡内の小学校7校の教師を対象に学校保健セミナーをトゥン小学校にて開催した。郡保健局含む35名の参加者があった。講義内容は1.寄生虫について（Dr.コンサップ）2.タバコの弊害について（Dr.マニパン）3.手洗い方法のデモンストレーション、講師指導のもと実習

昨年末実施した検便で、寄生虫感染率が高かったため、寄生虫についての講義に時間をかけた。子供たちに予防の大切さを伝えられるよう、教師を対象に実施した。

◆ 本年度活動対象校

Ban Tun (トゥン小学校) 生徒数 150名 教師 10名 教室 8

検便、スポーツ用品供与、文具供与、机イス10セット、天井ファン、保健教材

2014年3月24日の学校保健のセミナー開催校、郡保健局含む35名の参加者があった

Ban Bung Hua Na (バンファナ小学校) 生徒数 238名 教師 23名 教室 10

スポーツ用品、文具供与、机イス10セット、天井ファン、拡声器2台、DVDプレーヤー
給水工事、安全な水が飲めるよう飲料水フィルター、保健教材を寄与
古い校舎改修の要望あり。

Ban Dong Mark Ba (ドンマークバ小学校) 生徒数 101名 教師 7名 教室 5

スポーツ用品、文具供与、机イスセット10セット

■机いすは70セット作成し上記3校と他4校へ供与。

■スポーツ用品は上記3校と他7校へ供与。

3.視察ツアー

①2013年6月9日～6月15日（事前調査 1名参加）Dr.コンサップ、Dr.ソムチット全行程同行。

カムアン県保健局、県副知事、セバンファイ郡保健部、教育部を表敬訪問にはISAPHスタッフも同行してもらった。

②2013年12月22日～12月28日（理事4名参加）

ビエンチャン郊外のナテ村、バンチャン村、サムケ村を視察訪問、代表と面談。

今年度からの対象地域となるカムアン県へ車で約5時間移動。Dr.コンサップ、Dr.ソムチット、Dr.マニパン同行。カムアン県副知事、保健局、教育局、ISAPH オフィスを表敬訪問。

カムアン県セバンファイ郡の7校に机イス70セット、スポーツ用品を供与

記名はトゥン小学校でまとめて行い、他6校の学校代表は机イスを運搬機に乗せて持ち帰った。

平成 26 年度（2014 年）事業計画

国内活動

- ①絵本部：じゃっど活動の広報、啓発を兼ねて、また地域貢献への意識も持って行う。
「絵本を届ける運動」に参加（社団法人「シャンティ国際ボランティア会」から、ラオス語訳のシールと共に日本の絵本セットを購入。会員、また活動を理解し協力してくださる方々にラオス語訳シール貼りの作業を手伝って頂き、ラオスへと送るものである）
- ②開発部：昨年に引き続き、以下を行う。
 - ・鹿児島大学法学部にて講義「ボランティア論」
 - ・鹿児島大学ボランティア体験学生の受け入れ（後期）
 - ・県内の小中学校での講話
 - ・県内の国際交流活動に積極的に参加
- ③広報部：じゃっど新聞の発行、ホームページ更新、パンフレット配布、ボランティアの募集、他

1. 国内事業

- ① 第 33 回日本国際保健医療学会西日本地方会 開催
 - ・平成 27 年 2 月 28 日（土）、鹿児島純心女子大学にて開催
- ② ラオスやじゃっどの活動を鹿児島県内でもっと知ってもらうためにスタディツアーを企画、実施する。時期については、会員の要望などを考慮する。
- ③ 「じゃっどパネル展」の開催
 - ・鹿児島市と薩摩川内市で 2 回開催予定
 - ・遠方の方へは会員を通して貸し出しを行いパネル展の開催を促す
 - ・企業との連携・・・パネル展（地元企業）の共催
- ④ 助成金等
 - ・薩摩川内市国際交流ネットワーク団体（予定）
 - ・鹿児島県および薩摩川内市の各種助成制度への応募、他（予定）

2. ラオスでの事業の実施に関する事項

25 年度は、“じゃっど”の今後の活動を見据えたりサーチの年で、ラオス側代表である Dr.ソムチット, Dr.コンサップと共に検討しました。昨年 6 月には、帖佐徹会員がラオス側と共に、カムアン県の視察に行きました。カムアン県が選ばれたのは、(1) 貧困県で支援を必要としていること、(2) 帖佐会員がかつて専門家で赴任し、Dr.ソムチット, Dr.コンサップは現在でも母子保健や寄生虫対策の指導を行っており、現地との人的な繋がりがあること。(3) 帖佐会員の勤務する聖マリア病院とその NPO である ISAPH でも、現地で栄養改善プロジェクト・寄生虫対策を行っており連携が見込めること、等の理由によります。

以上から、ISAPH プロジェクト地域の 3 つの小学校を選んで、寄生虫対策を実施することとなりました。25 年 11 月には小学校での検便検査を行い、寄生虫保有率が子供だけでなく教師でも高い